

豊平のあゆみ

～まちと軍隊編～

2022年区制50周年
特別企画 第5回

区制施行から50周年の節目に、
豊平区の歴史をたどります

現在の月寒地区にはかつて軍隊の兵営が置かれており、その足跡は区内のさまざまな場所に今も残っています。特別企画第5回目の今回は、月寒に駐屯した軍隊、歩兵第二十五連隊にまつわる区の歴史について振り返ります。

【詳細】区役所総務企画課 ☎822-2407

1 歩兵第二十五連隊の編成

明治29（1896）年、当時の陸軍第七師団を札幌に設置することが決定。月寒村に独立歩兵大隊の兵営*が建設され、およそ1,700人の兵隊が入営しました。当時の村の人口が約2,500人だったので、一度に約1.7倍に増えたこととなります。これにより、兵営の周辺に日用品店や飲食店などの商店が並びました。その後、明治35（1902）年までに第七師団の大部分が旭川に移転、月寒村には歩兵第二十五連隊（明治32年に改称）が残りました。

*兵営：軍隊が居住する場所、兵舎を中心とした区域



札幌市公文書館所蔵

▲歩兵第二十五連隊兵営（昭和7年）
現在の月寒東1条3丁目から東2条8丁目付近

2 区内に残る軍隊の足跡

西岡水源池と水源池通

月寒は台地になっており、水量が豊富ではないところに大人数を抱える兵営が設置されたため、水の確保は非常に重要な課題でした。明治41（1908）年に歩兵第二十五連隊が軍用として月寒水道を造ることとなり、西岡水源池から軍施設まで水道管を引きました。完成後は兵舎や軍の病院の他、小学校などに水が供給されました。この工事の際、資材を運ぶために整備した道が、後の水源池通となっています。西岡水源池は昭和46（1971）年に白川浄水場が通水するまでの間、重要な水源として活用されました。



▲水源池通（昭和30年頃）



▲旧西岡水源池取水塔（令和4年）
平成13年に国指定の登録有形文化財となる。

“アンパン道路”

明治 43 (1910) 年、豊平町役場の月寒移転に伴い、月寒と平岸をつなぐ道路を造ることが決まりました。しかし、道路予定地は高低差が激しく、水田の埋め立てが必要であったことなどにより作業は難航しました。そこで、豊平町長が連隊へ道路整備の助力を依頼します。住民の奉仕と軍隊の協力により、道路はわずか 4 カ月という早さで完成。作業を手伝った兵隊へ毎日アンパン 5 個が支給されたことから、親しみを込めて、この道を “アンパン道路” と呼ぶようになりました。



アンパン道路整備の様子▶



3 終戦後の陸軍施設

小演習場、射撃場が月寒公園へ

野球場や大型遊具などが設置され、多くの人でにぎわう月寒公園も、元は軍所有の土地で、小演習場や射撃場として使用されていました。明治 43 (1910) 年、軍から小演習場を譲り受けた豊平町はこの土地を公園にしました。戦後、手つかずで荒れていた公園は、地元有志と町により、散策路の改修やあずまやの設置などの整備が進められ、昭和 36 (1961) 年に総合公園として開園。その後もさまざまな整備が行われ、現在の姿となり、市民の憩いの場として大切にされています。



▲歩兵第二十五連隊射撃場



月寒公園▶
(令和 4 年)



▲練兵場の様子 (大正 11 年)

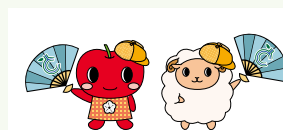


▲月寒体育館 (令和 4 年)

練兵場が月寒体育館へ

練兵場*跡地は道営札幌競輪場、月寒運動広場を経て、昭和 46 (1971) 年に月寒屋内スケート競技場となります。昭和 47 (1972) 年に開催された札幌冬季オリンピックではアイスホッケーの試合会場となり、熱戦が繰り広げられました。オリンピック終了後、月寒体育館に名称変更され、市民へ一般開放されるようになります。現在は、月寒屋外競技場とともに、国際大会・国内大会が行われる他、気軽にスポーツに親しめる施設として多くの人に利用されています。

*練兵場：兵が戦闘に必要な訓練をする場所



2022年区制 50 周年特別企画、
豊平のあゆみは次回が最終回！
お楽しみに！



【参考文献】『豊平町史』『札幌歩兵第二十五聯隊誌』『新札幌市史』『札幌市水道五十年史』『つきさつ歴史散歩』『月寒公園とその周辺』など

